

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 9 月 5 日現在

機関番号：12501

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2014～2017

課題番号：26870633

研究課題名(和文)国際バカロレアの構造と教育効果に関する研究

研究課題名(英文)Research on the structure and educational effect of international baccalaureate

研究代表者

御手洗 明佳(Mitarai, Sayaka)

千葉大学・アカデミック・リンク・センター・特任助教

研究者番号：00725260

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、「国際バカロレア」のカリキュラムがどのような構造から成り立っているのか、また、学習者はどのような教育効果を得ているのか、カリキュラム分析と学習者及び教員へのインタビュー調査を実施した。その結果、国際バカロレアは、獲得すべきスキルとその達成基準のカリキュラム構造をもち、その構造は、学習の途中過程である学習内容や方法の柔軟性を促進させていた。また、学習者が身につけるべきスキルや能力とその達成すべき基準を対象者に明確にすることにより学習者はこれまで涵養が難しいとされていたスキルや能力をレベルを含め認識し、能力が身につけている理解していることが明らかとなった。

研究成果の概要(英文)：This research investigated curriculum analysis and interviews with learners and faculty about what kind of structure the curriculum of 'international baccalaureate' is made up and what kind of educational effect the learner has. As a result, International Baccalaureate had a curriculum structure of skills to be acquired and standards of success, and its structure promoted the flexibility of learning content and method which is the course of learning. Also, by clarifying the skills and abilities the learner should acquire and standards to be achieved to the target, the learner recognizes skills and abilities that have been thought to be difficult to cultivate up to the level, and has ability It is obvious that you understand it is about yourself.

研究分野：教育社会学

キーワード：国際バカロレア 国際的カリキュラム IB カリキュラム分析

1. 研究開始当初の背景

「教育効果」という問題関心については教育社会学の領域では、学校効果研究 (School effectiveness Research) として多くの研究蓄積がなされてきた。これらの研究では、生徒の潜在的な能力や家庭の影響から、学力や資格の達成度を指標として教育効果を定量的に測定してきた結果、「社会的不平等の問題」を明らかにするという成果をあげてきた。しかし、これらの研究には、第一に、学力や資格の到達度を指標とすることに対する問題点である。受講してきた学習の質と相互依存的な関係にあるかは極めて懐疑的であることや、第二に、学校内部 (教育プログラムや教授方法) をブラックボックスとして見逃してきた点である。第三に、各先進国のように高等教育のユニバーサル化が進行する社会では学力や資格の達成度が必ずしも教育効果に効果を及ぼさなくなっているという点で課題を抱えていた。

2. 研究の目的

そこで本研究では、国際的に通用する大学入学資格として「グローバル・スタンダード」と称される国際バカロレア (International Baccalaureate、以下 IB と呼ぶ) 教育プログラムに注目することで、高等教育接続に関わる教育効果と、その効果を支える教育システムを明らかにすることを目的とした。

上記を明らかにするため、筆者は、IB 教育プログラムの中高等教育としての社会的役割と実態を明らかにすべく、何を「知」とする教育プログラムなのか【学力/能力観】、授業でどのようにスキル獲得のトレーニングをしているのか【教授方法】、IB 教育プログラムが前提とする社会的背景と担う役割とは何か【社会的役割】について調査研究を進めてきた。これらの研究は本研究のうち「IB スクール内で教員は受講生徒にどのように教授しているか (プロセス) 段階を補完するものである。これらの研究成果を、IB 機構の取組みやその役割 (インプット) と、IB 教育プログラムの教育効果 (アウトカム) という段階に分け IB の全体像を包括的・創造的に捉えようとするのが本調査の狙いである。

3. 研究の方法

これら目的を達成するため、3つの課題を設定して取り組んだ。第一に、IB 教育プログラム作成とその評価の質保証を担う IB 機構の構造とその取組みに関する実態調査おこない (インプット)、第二に、IB スクール内で教員は受講生徒にどのように教授し (プロセス)、第三に、その結果、生徒たちは中等教育段階でどのような能力を身につけているのか (アウトカム) という3段階の課題を設定する。

インプットでは、これまでの研究結果から、

我が国の教育課程および教育システムと IB 教育プログラムの違いとは ( ) カリキュラム内に評価基準の設定、( ) 質保証のための評価機構が存在、( ) ICT を使用した教員養成のシステム構築であるといえる。これらを作成し統括している機関が「カリキュラム・評価部門 (IB Assessment Centre)」(図1) である。よって、IBAC のカリキュラム・評価の開発および支援体制、さらに抱える諸課題について、先行研究の分析や IBAC 関係者へのインタビュー調査から明らかにする。

プロセスでは、IB 教員へのインタビュー調査の結果、IB 教員は、IB 機構から提供される ICT 環境を通じて教員としての専門職性を保つため「学び、振り返り、点検する」という一連の学びを実践している。このような IB スクールと IBAC、および「各地域のセクター (3つのグローバルセンター)」が担う支援体制や IB スクールおよび教員の評価方法についてグローバルセンターの訪問およびインタビュー調査によって明らかにする。このとき、応募者先行研究の授業のプロセス部分と1、機関の実態調査の連携を重点的に明らかにする。

そして、上記のインプット、プロセスを踏まえた上で、本研究の中心的課題である IB 教育プログラムの教育効果についての実証的調査へと着手する。調査方法は、IB ディプロマ取得者へのヒアリング調査を実施する。最終的に IB 教育プログラムの構造と高等教育への接続に関する教育効果について包括的・総合的に検討し、IB 教育プログラムが今後果たし得る役割について検討を加える。

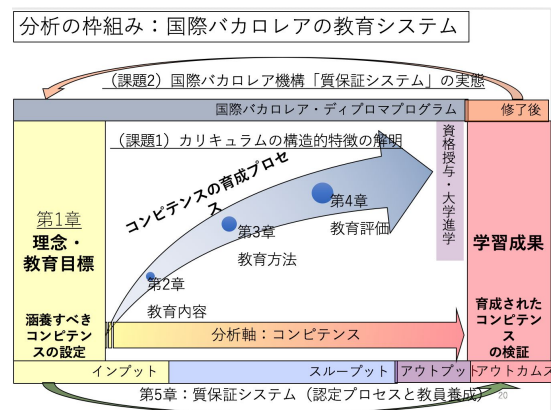


図1 プログラム構造の分析枠組み

4. 研究成果

調査の結果、第一に、IB 教育の構造とは、教育目標として「コンピテンス」を設定し、それを涵養するための「教育内容の基準」、「教育方法の基準」、「教育評価の基準」が明確にされていた。すなわち、目標や身につけるべき知識・スキルが先に設定されており、教員は、その知識・スキルが生徒にどの程度

身につけることができたのかを客観的に確認するための評価を実施していた。この手法は、何を教えるのかというよりはむしろ、何ができるようになったのか、何の知識・スキルを活用できたのかに注目する教育プログラムの構造を有していた。

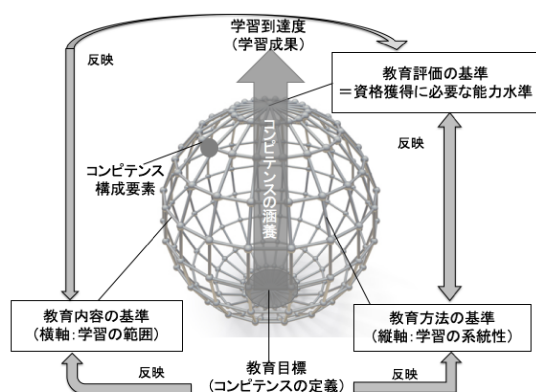


図2 IBプログラムの構造

第二に、IB 教員は、生徒の多様性を生み出すため、興味関心を引き出すこと、一つの問いから多様な回答を生み出すことを意図する教育を心がけ実践していた。これは、IB プログラムが、創造性・独創性の涵養を目指しているためである。

第三に、こうした教育を受けた生徒は、幅広い知識というよりも、むしろリサーチスキルや、批判的分析力、論理的思考力、評価能力等、学校生活のみに止まらず、応用可能なスキルやものの考えた方を身につけていることが明らかになった。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 4 件)

御手洗明佳、国際バカロレアの教育システム分析 - コンピテンスの育成プロセスに着目して -、博士論文、2017、1-321.

花井涉「国際バカロレア・キャリア関連教育プログラム (IBCP) のカリキュラム分析 - 国際バカロレア・ディプロマプログラム (IBDP) との比較から -」、『国際バカロレア教育研究』査読有り、創刊号、2017 年、pp. 57-65.

御手洗明佳「カリキュラム構成が教員の「活用する力」の認識に及ぼす影響」「高校国語」と「国際バカロレア DP Language A」の比較から -、『日本英語教育学会第 43 回年次研究集会論文集』、日本英語教育学会編集委員会編集、早稲田大学情報教育研究所発行、pp.71-79、2014 年

御手洗明佳「後期中等教育における評価管理型教育の実践：国際バカロレアに焦点を当てて」、『早稲田大学大学院研究科紀要別冊』、早稲田大学教育学研究科、21 号(1)、pp.67-77、2013.9

〔学会発表〕(計 5 件)

御手洗明佳、「「目標に準拠した評価」に関する一考察 - 国際バカロレアと現行指導要領の比較から -」、『日本比較教育学会』、第 52 回大会、大阪大学豊中キャンパス、2016 年 6 月 24 日。

御手洗 明佳. 2015. 「IB 教育から高等教育への示唆 (学習評価の観点から)」, 岡山大学アドミッションセンター主催シンポジウム, 岡山大学五十周年記念館, 2015 年 12 月 14 日. <招待講演>

御手洗明佳、花井涉「国際バカロレア機構の質保証システムの構造 認定校と教員へのサポートに焦点を当てて」、『日本教育学会』第 74 回大会、2015 年 8 月

御手洗明佳、「国際バカロレアの教育効果に関する研究 評価指標の設定に着目して」、『日本英語教育学会』第 45 回年次研究集会、2015 年 3 月

御手洗明佳、「国際バカロレア教育プログラムの知識構造 テスト問題の分析から」、『日本教育社会学会』、第 66 回大会、松山大学、2014 年 9 月。

御手洗明佳、「国際バカロレア言語 AB 科目で伝達される知識に関する一考察 IB 教員の教授法に焦点を当てて」、『日本教育学会』、第 73 回大会、九州大学、2014 年 8 月。

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況 (計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況 (計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：

番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

御手洗 明佳 (MITARAI, Sayaka)  
千葉大学・アカデミック・リンク・センタ

—

特任助教

研究者番号：00725260

(2) 研究分担者

( )

研究者番号：

(3) 連携研究者

花井 渉 (HANAI, Wataru)  
福井大学・学術研究院・人文社会系部門(教  
員養成・院)  
特命助教  
研究者番号：60783107

(4) 研究協力者

大塚 恵理子 (OTSUKA, Eriko)  
学研教育総合研究所